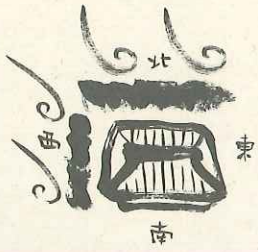
つじまつ COMMUNICATION 11

つじまつコミュニケーション：築地松情報誌2000.3月　発行−築地松景観保全対策推進協議会

「つじまつ……」
「いやね、出雲平野の民家では西と北に松を植えてあるんだがね、それを築地松っていうんだよ」
「あ、そう言えば……」
真弓は、出雲からの行き帰りに見た風景を思い浮かべた。
「これはまあ、出雲平野の風物詩ということなんだけど、昔から強い北西風が吹いたので、それを防ぐための防風林だね。生垣状に植えた松をきれいに刈り込んで、まあ、

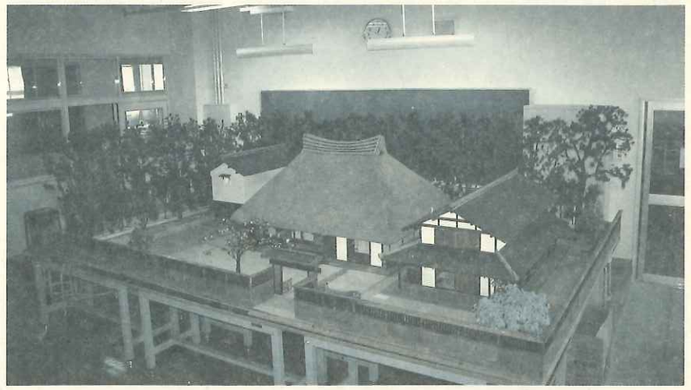


壁みたいにするわけさ」
「だけど、北西以外から強い風が吹かないという保証はないんだからな」
「そこなんだよ。北西から吹くから北西だけ防風林をつくる。強風はいつも北西からやって来るって決めてるところが大らかだよな」
「だから、それだけ素直に自然の法則を信じてるってわけさ」

村松友視著
「時代屋の女房　怪談篇」より引用

特集 出雲平野の典型的な農家の ジオラマ製作 を通して ～高校生たちの眼～

平成11年11月4～7日、「全国産業教育フェア島根大会」が松江市において行われ、県内外の専門高校約600校2000人が、日頃の学習や研究の成果を発表した。ここに出品展示された実習作品の一つに、築地松に囲まれた農家のジオラマがあった。出雲平野に吹きつける北西の季節風の流れを示した模型とともに、島根県立出雲工業高校建築科の生徒たちが作ったものだ。材料も作り方もできる限り実物に近づけたその作品は、多くの人たちの目を引き、誰もがそのち密さに感嘆の声をあげた。



いかに本物に近いものが作れるか‥‥。島根県立出雲工業高校建築科施工実習コース3年生17人の生徒たちの、最も重要な課題だった。柱などの材料となるヒノキの表面は、古い農家の雰囲気を出すためバーナーで焼いたあとに着色。瓦は型造りから始め、硬化プラスチックで手作りした。また、部屋の造作まで実物と同じように、畳や障子は一枚ずつ作り、床の間や電燈も取り付けた。さらに、イグサを使ったかやぶき屋根は本番さながら一つ一つふいたため、一面を完成させるのに費やした時間は約一ヶ月。「単調な作業が一番きつかった」と、林真人さんが言うように、ジオラマは、本物の農家を一軒まるごと作り上げるような作業を繰り返してできた産物なのだ。材料を探して全国を回り、生徒の指導にあたった山田晋吾先生は、「6月から作り始め、夏休みもほとんど毎日。大会間近には夜遅くまで根気よく作業を続けた、職人技の結晶です」と、生徒たちを賞賛する。そうしてできた家屋敷のまわりにあるのが、枝振りも見事な築地松。実際の陰手刈りによって刈り落とされた黒松の枝をわけてもらい、小さな松葉の造花をつけたものだ。「築地松は、あるのが当たり前だから」と、早見亜紀子さんが考えていた通り、築地松を一つ一つ作りながら、その機能の重要性や家が持つ歴史の深さなどを、生徒たちは改めて確認したに違いない。5ヶ月をかけ、丁寧に作り上げられたジオラマは、今後、斐川町において保管展示することが決まっている。

※現在は出雲文化伝承館において展示中。（～5／31まで）入館料必要。定休日あり。

暮らしの中で 「次世代へ渡す思い」 周藤 清さん（大社町大字入南在住）

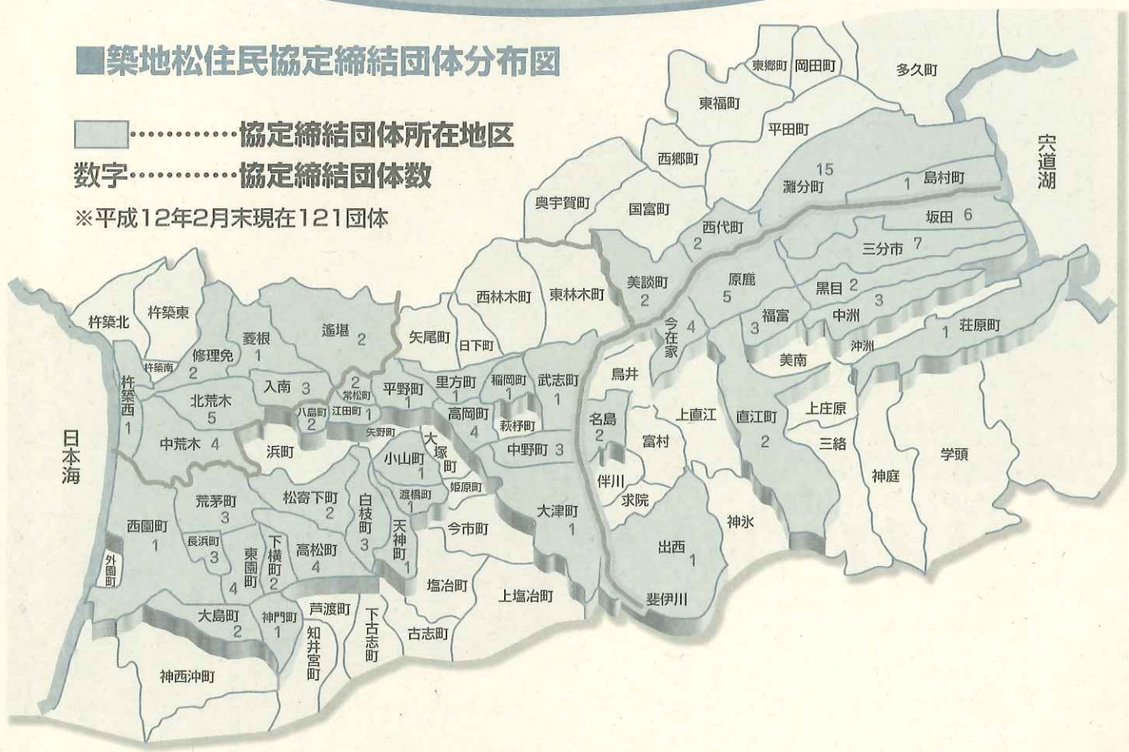
「うちの築地松は、私の父が生まれた明治30年に祖父が植えたもんですわ」と言う周藤さんは、父親と同じように、自らの手で剪定を続けている。その腕前は、陰手刈り職人に引けをとらないほどだ。しかし、11メートルの高さで並んだ16本の築地松にも松くい虫の被害が及び、平成11年の夏から半年間で、4本を残して伐採する運命となった。それは皮肉にも、周藤さんが代表を務める「鎧ヶ崎地区築地松を活かした住民協定地区」が、10月に県知事表彰を受けた時期と重なった。築地松がなくなって初めて、家屋にまともに吹き付ける風の強さがわかったという周藤さん。「私の代でまた植えることになーましたわ」と、柔和な顔が引き締まった。20年ほどで築地松として必要な高さにまで育つそうだが、その頃には90才近くだ。「間に合うかどうか‥‥」と笑う瞳の奥に映っているのは、これまでと同じように、堂々とした築地松がしっかり家を守っている姿なのだろう。祖父から続く築地松に新たな松を加えて、周藤さんが子や孫へ渡そうとしているものは、美しく並んだ松の姿だけではなく、この地に生まれ育った誇りそのものなのかもしれない。

築地松景観保全対策推進協議会とは

出雲平野の「築地松散居景観」を保全するため、平成6年5月に
島根県、出雲市、平田市、斐川町、大社町及び住民代表を構成員として発足させました。
協議会では広報誌、などを通して普及啓発を図ると共に、
一定の区域を設定した、全員参加による築地松景観保全住民協定を設け、
築地松の維持管理費の助成などの保全対策事業を展開しています。

■築地松住民協定締結団体分布図

□……協定締結団体所在地区
数字……協定締結団体数
※平成12年2月末現在121団体



■築地松景観保全住民協定の認定（平成12年2月末現在）

合計 － 協定数：121／構成人数：2,248人
所有者：1,729人 ／ 面積：2,031.87ha

市町村名	出雲市	平田市	斐川町	大社町
協定数	46	19	37	19
構成人数	557 人	534 人	873 人	284 人
所有者数	458 人	349 人	620 人	272 人
面積	342 ha	460.2 ha	607.03 ha	114.1 ha

■築地松助成金の交付（平成10年度～11年度前期）

合計 － 助成人数：181人
助成金支出額：5,921,970円

市町村名	出雲市	平田市	斐川町	大社町
助成人数	84 人	23 人	49 人	25 人
支出額	2,966,150 円	713,920 円	1,316,830 円	925,070 円

出雲平野の築地松実態調査および住民意識調査の終了ならびにお礼

平成11年に築地松の現状を調査するために、出雲平野の築地松実態調査を実施いたしましたが、住民の皆様のご理解とご協力の結果、無事終了いたしました。

また、築地松に対する住民の皆様の意識、考え方などを今後の築地松景観保全の活動に反映させるため実施いたしました住民意識調査につきましても、調査票の配布・回収など住民の皆様の大変なご協力のもと、無事終了することができました。ご協力をいただきました皆様をはじめ、住民の皆様に厚くお礼申し上げます。

今後はこれら調査の結果を集計・分析し、住民の皆様にご報告するとともに、今後の事業に活用し、よりよい築地松景観保全につなげてまいりますので、さらなるご理解・ご協力をお願いいたします。

築地松の維持管理費の助成制度

■助成対象となる維持管理内容
1. 松枯れの防除
2. 枯れ松の伐倒
3. 築地松の剪定
4. 築地松の新植・補植

■助成金の交付額
維持管理に要した経費の2分の1以下で上限が10万円までです。

■助成金を受けるのに必要なもの
1. 維持管理に要した経費を証明する領収書
2. 写真

※この助成金は、同一の築地松に対しては、4年間に1回です。助成金に関するお問い合わせは、築地松景観保全対策推進協議会（次ページ下欄参照）までお願いします。

築地松物語（ついじまつものがたり）

築地松の歴史と型

○古い型の築地松（約7％）

築地松の歴史は詳かではありませんが、古くは家を覆う森のような屋敷森であったといわれています。旧田地区の古い屋敷（15世代以上）の中心的樹木はスダジイかタブノキです。この地方の気候帯は暖温帯ですので、昔の山野はスダジイやタブノキの照葉樹で覆われていたことでしょう。その名残りが今の鎮守の森です。湿気を嫌うスダジイは山手か川提跡のやや高所の屋敷森の主木であり、湿気を好むタブノキは平坦地の屋敷森の主木になっています。世の平穏と豊作を祈った古代の出雲人たちは、鎮守の森の主木を住居に移し、屋敷森の形で屋敷神を祀ったのではないでしょうか。神々と共に生きてきた出雲人たちの心根といえましょう。

○中間型の築地松（約44％）

タブノキやスダジイを中心とした屋敷森に何時どのようにしてクロマツが取り入れられるようになったのでしょうか。調査の結果ではほぼ十世代前後（約300年）の屋敷の多くは、先ず季節風に強く風格のあるクロマツを西側に植栽したようです。旧田地区で最も多いのがこの型で、西側がクロマツ北や東が雑木（スダジイ、タブノキ、モチノキ、ヤブニッケイなど）で囲まれている屋敷です。そして、東北の隅は主にマダケの竹林が占めています。

○新しい型の築地松（約49％）

宍道湖に近い新田地区になると築地松の名の如く屋敷の廻りはクロマツのみによって囲まれてきます。一般的には西と北側です。この型は四～五世代の家に多く、ほぼ江戸から明治にかけてではないかと思われます。築地松を美しく刈り込む陰手刈りも明治の終り頃からであると云われている。

○築地松とマテバシイについて

出雲平野の築地松を語る時、マテバシイを無視することはできません。それほどマテバシイは築地松と強く結びついています。マテバシイが主木の築地は殆どありませんが旧田地区（求院・富村）ではクロマツの下で重要な風衝樹としての役割を演じています。大きな種をつけるマテバシイは古来より重要な食糧源でもあったことでしょう。九州が自生地のマテバシイ（一名サツマジイ）がいつどのようにして出雲にやって来たか、疑問の多い防風樹です。

（有田　宗一）

表紙紹介／作品・作者プロフィール

村松 友視（ムラマツ　トモミ）

小説家　1940年東京生まれ。慶応義塾大学文学部哲学科（昭和38年）卒業後、編集者を経て作家に。'57年「時代屋の女房」で第87回直木賞を受賞。代表作に「私、プロレスの味方です」「アブサン物語」「俵屋の不思議」などがある。表紙紹介作品「時代屋の女房　怪談篇」は、松江、出雲を舞台とした作品。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課　〒690-8501 松江市殿町1番地　電話0852-22-6143
島根県出雲総務事務所　〒693-8530 出雲市大津町1139　電話0853-23-1515
出雲市建設事業部建築課　〒693-8530 出雲市今市町109-1　電話0853-21-2211
平田市建設経済部農山村整備課　〒691-8601 平田市平田町951-1　電話0853-63-5546
斐川町ふるさとデザイン課　〒699-0592 斐川町大字荘原町2172　電話0853-73-9210
大社町観光商工課　〒699-0792 大社町大字杵築南1395　電話0853-53-3111
ついじまつホームページアドレス　http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/

この情報誌は古紙配合率100％の再生紙と、環境保護のために大豆インク（SOY INK）を使用しています。